

平成29年度 自己評価結果公表シート

認定こども園 下関短期大学付属第二幼稚園

1、目指す子ども像

- ・ 明るく元気な子ども
- ・ すすんで何でもしようとする子ども
- ・ ねばり強くがんばる子ども
- ・ 素直で思いやりのある子ども

2、教育目標

- ・ 目指す子ども像を念頭におき、一人ひとりの子どもの可能性を十分伸ばしていく

3、本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画を基に設定した学校評価の具体的な目標や計画

- ・ 評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、教育内容の改善・施設の改善に主体的に取り組んでいくことを重点目標とする。

4、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
①指導計画の作成と評価（週案・日案） ・子どもの実態を十分把握し、発達状況を考慮して案を立てているか	・期案を基に、日々子ども達の発達状態を考え立案するように努めている。
②指導計画の作成と評価（行事） ・それぞれの行事について、子どもの発達を考えながら実施し、子どもの実態やねらいなどについて職員間で話し合い、見直しをおこなっているか	・子ども達の発達を考えながら、園長に相談し子どもの実態に合わせた活動内容にするように計画を立てている。 ・全職員間で話し合いを持つ時間がとり辛く、以上児クラスと未満児クラスに分かれて話し合いを行い、子どもの実態やねらいについての見直しを行うようにしている。
③食育の充実について ・園の菜園を利用し、各年齢に合った栽培や収穫活動に取り組んでいるか	・年間の食育計画を立て、各年齢に合った栽培や収穫活動に取り組んでいる。 ・玉ねぎ・じゃがいもの栽培の復活や夏野菜の栽培など、菜園活動の充実を図り、収穫物を園で調理し食することで、食育につながるようにしている。

<p>④教育環境の構成</p> <p>・子どもを温かく受け入れるような環境をつくり、人とかかわる力が育つような配慮をしているか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員ががすすんで挨拶をするよう心掛け、笑顔で受け入れることで安心感を与えるよう努めている。 ・安心して園生活を過ごす中で、職員が仲立ちをし他児とのかかわりを持つことができるよう配慮している。
<p>⑤幼児の観察と理解</p> <p>・幼児の話を聞いたり、言葉にならない思いやサインを受け止めるよう努めているか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達一人ひとりを十分観察し、個々を理解することで、子どもとの信頼関係を深めるようにしている。 ・一人ひとりを十分理解したうえで、子どもの声に耳を傾けたり子どもの心の声を聞くようにしている。
<p>⑥教職員同士の協力・連携</p> <p>・子どものことについて常に教職員間で話し合い、クラスをこえて情報を共有しているか</p> <p>・職員同士が相談しやすい環境を作り、常に協力体制のもと園務遂行ができていますか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・未満児保育と以上児教育の体制の違いや勤務シフトの関係で、全職員での会議を行うことが難しく、情報共有ができないため、ホワイトボードを利用しヒヤリハットや全職員に共有しておくべき子どもの情報を表示するようにしている。 ・園長や主幹教諭が中心となり、相談しやすい環境を作るよう努めている。
<p>⑦研修・研究への意欲・態度</p> <p>・自分の保育については自己課題を持って計画・実践・反省を行い、そこで得た悩みや学びを他の教師と話し合うことができるか</p> <p>・積極的に研修会に参加し、スキルアップに努めたか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の反省を日案や週案に書くことで、自分の保育について反省を行い次回の保育や指導計画へ繋げている。 ・活動の指導法、教材研究で悩んだ際、園長や主幹教諭に相談しやすい環境を整えている。 ・研修会へ参加した職員のスキルアップはもちろんのこと、研修会へ参加できなかった職員に対しては、研修会の復伝を文書化し、他の職員へのスキルアップにもつながるようにしている。
<p>⑧安全への配慮</p> <p>・けがや事故には特に気を付け、年齢に応じた適切な環境構成やことばかけを行っているか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当番制で、戸外遊具や運動場の安全点検を毎日行い、危険な環境を発見した際は、直ちに園長に知らせるようにし、事故を未然に防ぐよう努めている。 ・未満児はケガや事故のないよう子どもの側で見守り、環境構成に配慮している。 ・けがや事故が発生した場合は原因を追究し、各年齢に応じた指導を行い、自分でケガを防ぐ力を養うようにしている。 ・ヒヤリハット事項をボードに表示することで、職員の安全面への意識を高めるようにしている。
<p>⑨安全管理体制の整備</p> <p>・安全対策・危機管理マニュアルを理解しているか</p> <p>・緊急時（事故やけが、感染症の発生時など）の対応手順について、全教職員が共通理解をもてるよう取り組んでいるか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態発生時の対処・救急および緊急連絡体制の確認書を、作成し年度当初に配布し、それをもとに対処法を全職員で共通理解ができるようにしている。 ・園内で感染症が発生した場合は直ちに対処法を話し合い、感染症の蔓延を防ぐよう努めている。
<p>⑩情報の発信と受信</p> <p>・園だよりやクラスだよりによって日々の保育の様子を知らせるとともに、個々の子どもの様子は保護者に直接話をしたり、連絡帳を使って伝え合っているか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園だよりやクラスだよりで、日々の保育の内容や様子を知らせるだけでなく、園の教育方針や活動のねらいも知らせ、園の教育・保育方針に対する保護者の理解が深まるようにしている。 ・以上児クラスは、降園時に必要に応じて子どもの様子を保護者へ直接伝え、情報交換をするよう心掛けている。 ・未満児クラスは、毎日の子どもの様子や成長を連絡帳に記入し、降園時に直接保護者と話をするなど保護者との信頼関係を深めるよう努めている。

<p>⑩事故やけが等への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育中のけがや病気については、速やかに保護者へ連絡を入れ、状況や原因を説明の上、病院へ搬送するなどの対処をしているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育中のケガの対応については、全職員で共通理解をし、適切に対応している。 ・けがの原因を必ず明らかにし、同じケガが起こらないよう努めている。 ・子どもの体調の変化などについては、保護者に伝えるよう心掛けている。
<p>⑪教材や備品の管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材や備品の準備や管理について担当を決め、責任をもって管理されているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当職員だけでは在庫管理が難しいため、在庫不足を感じた職員が担当に知らせるようにしている。
<p>⑫PTA活動の見直しについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTAの活動の負担軽減のために職員間で話し合い、行事内容の見直しを行っているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事におけるPTA活動についての話し合いを行い、できるだけ教職員で分担することで、PTA活動の負担軽減に努めている。
<p>⑬地域への開放と支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園が持つ専門的な技術や情報、環境・設備等を地域に開放・提供し、子育て支援に取り組んでいるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・わくわくランドの開催数を増やし、未就児に保育体験や遊びの場をできるだけ多く提供し、専門的な情報をわくわく通信やホームページにて保護者へ発信している。 ・在園児外の一時的預かり保育を実施し、保育に困っている家庭の支援を行っている。 ・体育教室のレッスン場として、遊戯室やプールを提供している。

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
<ul style="list-style-type: none"> ・安全への配慮 ・安全対策・危機管理マニュアルの全職員の共通理解 ・定期的な職員会議の実施 ・教職員のスキルアップ ・教材の在庫管理の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員室のホワイトボードを利用しケガや事故の発生やヒヤリハットを表示することで、全教職員がそのことについて共通理解をすることができ、ケガや事故の原因を考え今後の事故防止へつなげることができる。 ・年度初めにマニュアルを配布し、必ず目を通し理解を深めるようにする。また、職員会議で安全対策の事例を取り上げ、共通理解を深める。 ・全教職員での会議を実施することは難しいため、以上児クラスと未満児クラスに分けて職員会議を実施し、園長・主幹教諭・指導教諭が両法の会議に参加することで、全職員の共通理解を図る。 ・積極的に研修会への参加を促す。 ・研修会への復伝は、園内研修日を設け全教職員のスキルアップへつなげる。 ・在庫管理の担当者だけに任せず、全職員が在庫不足の報告をするよう努める。

